

## 形の似た漢字は少し間隔をあけて与える

もう一つ覚えておいていただきたいのは「頭」と「顔」、「右」と「左」、「蟻」と「蝶」のように、字形のよく似た漢字は同時期に一緒に与えないほうがよい、ということです。

字形が似ている漢字というのは、共通の部首をもつ、したがって対やグループをなすものがほとんどですから、ついまとめて教えたいくなるものです。ところが、たとえば「頭」という字を覚えたての時期に、印象の似た「顔」という字を見せてしまうと、大抵の子どもは、両方とも「あたま」と読んでしまうのです。

そこで、最初に「頭」を覚えたとしたら、まず何度もくり返し読み言葉としてしっかり定着してから、「顔」の字を与えてあげるようにしてください。体の部位をまとめて学習するのなら、間に「目」「手」「足」などの字を挟めばよいでしょう。

一度「頭」という字がしっかり頭に入ってしまうと、その後で「顔」の字を見せても、お子さんはその形の違いがはっきりと認識でき「あたま」と読んでしまうようなことはありません。